

遠隔臨場実施方法

(1) 適用種別

段階確認

種 別	細 別	確認時期項目	施工予定時期	記事
掘削工		埋戻し前	○年○月頃	段階確認項目 遠隔臨場

立会

材料名	規格	確認事項	材料確認時期	記事
擁壁工	境界工	境界杭の設置位置	○年○月頃	遠隔臨場

材料確認

材料名	規格	数量	材料確認時期	記事
GX形ダクタイル鋳鉄管	φ○○mm×○m	○○本	○年○月頃	段階確認項目 遠隔臨場

(2) 使用機器と仕様

1) 映像と音声の「撮影」に用いる機器と仕様

2) 「撮影」した映像と音声を「リアルタイム配信」するための機器と仕様

	配信機器等	【参考】企業団の仕様値
App(アプリケーション)	Zoom	—
機器	iPhone○	—
仕様(映像・音声)	転送レート(VBR): 46Mbps	転送レート(VBR): 平均9Mbps以上

(3) 段階確認等の実施方法

1. 事前準備

【段階確認】

遠隔臨場の実施に先立ち、工事監督員等に実施時間、実施箇所(場所)や必要とする資料等について、工事監督員等の確認を行う。なお、工事監督員等による確認の実施時間は、工事監督員等の勤務時間内とする。

【立会】

あらかじめ工事打合簿(遠隔臨場により立会を依頼する工種、確認事項、確認希望日時を記載)及び立会に必要な資料を工事監督員等に提出する。

2. 遠隔臨場の実施

「建設現場の遠隔臨場に関する実施要領(香川県広域水道企業団)」に従い、遠隔臨場を実施する。

(1) 資機材の確認

遠隔臨場による「段階確認」、「材料確認」及び「立会」の実施にあたり、事前に工事監督員等との双方向通信の状況について確認を行う。また、必要な準備、人員及び資機材を提供する。

(2) 現場(臨場)の確認

現場(臨場)における確認箇所の位置関係を確認するため、受注者は工事監督員等に実施前、現場(臨場)周辺の状況を伝え、工事監督員等は周辺の状況を把握したことを受注者に伝える。

(3) 実施

「工事名」、「工種」、「確認内容」、「設計値」、「測定値」、「使用材料」等の必要な情報について適宜黒板等を用いて表示する。実施にあたり、必要な情報を冒頭で読み上げ、工事監督員等による実施項目の確認を得る。また、終了時には、確認箇所の内容を読み上げ、工事監督員等による実施結果の確認を得る。

(4) 記録と保存

遠隔臨場の映像と音声を配信するのみであり、保存は行わない。